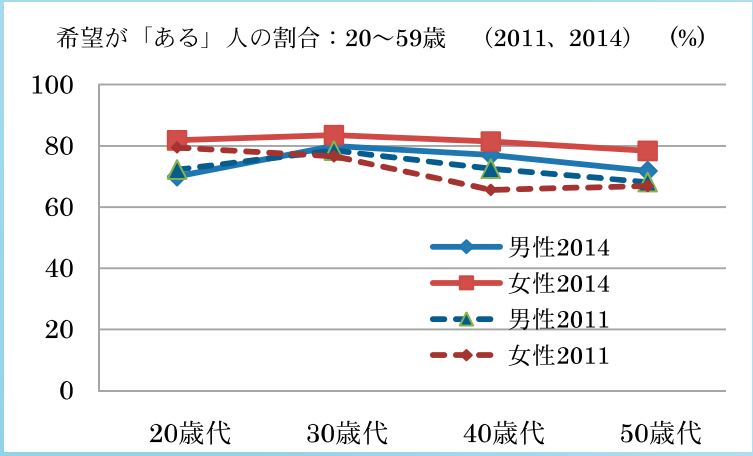
『福井の希望と社会生活調査 2014』
結果の概要

東京大学社会科学研究所は、福井県の人々の生活の実態と希望を分析するために、平成 23 年の第 1 回目に引き続き、平成 26 年 3 月には福井県と共同で、『福井の希望と社会生活調査 2014』を実施しました。対象者は、福井県内に在住の 20 歳から 64 歳の方々の中から無作為に抽出された 16,000 人です。本パンフレットは、調査の結果のうち、女性についての結果をご紹介するために研究チームが作成しました。

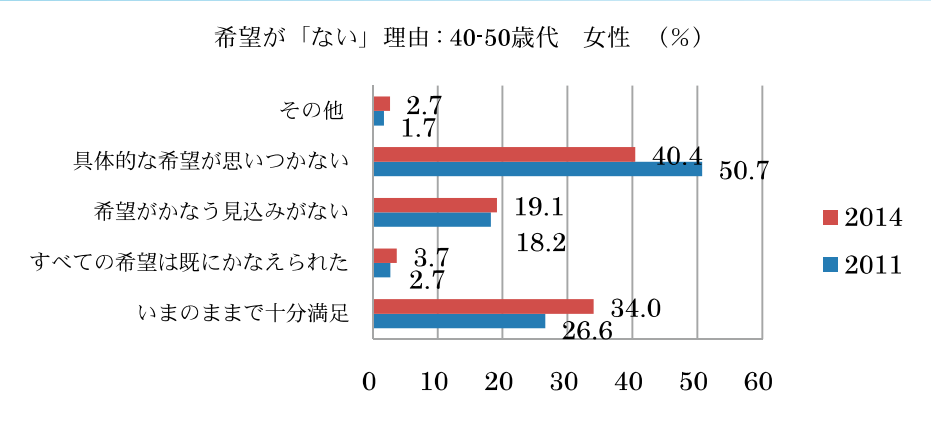
『福井の希望と社会生活調査 2014』は、東京大学社会科学研究所を中心とした研究チーム（研究代表者：大沢真理）が、文部科学省の研究助成を得て、2014 年 2 月に福井県在住の 20～64 歳の個人 16,000 人を対象として行った調査です。
回収数　6,298 票（有効回答率 39.4%）回答者の性別：　男性 41.9%、女性 57.6%、性別不詳 0.5%
回答者の年齢層：10 歳代 1.2%、20 歳代 9.3%、30 歳代 15.6%、40 歳代 21.2%、50 歳代 29.6%、60 歳以上 21.1%、年齢不詳 1.9%

1　福井の女性の希望

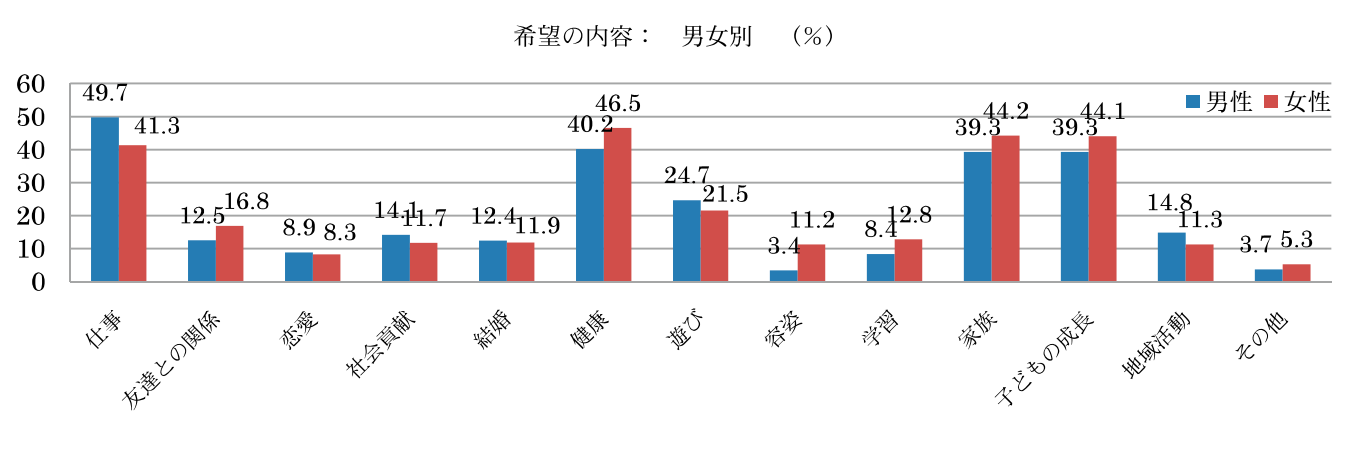
本調査の目的のひとつは、福井県の人々の「希望」について調べることでした。希望については、2011 年に実施された第 1 回調査から引き続き聞いています。2014 年の調査では、福井の２０歳代から５０歳代の人々の約 77%（男性 75%、女性 79%）は将来への希望が「ある」、21%（男性 23%、女性 19%）は「ない」と答えています。性別、年齢別では、男性よりも女性の方が、夢がある割合が高く、特に 20 歳代の若い層においては差が大きくなっています。2011 年と 2014 年の結果を比べると、40 歳代と 50 歳代の女性においては、「夢がある」とした人の割合が増えています。一方、男性のすべての年齢層および女性の 20 歳代・30 歳代では、2011 年から 2014 年にかけて統計的に有意な変化はありませんでした。



40-50 歳代の女性の「希望がある」割合が増えたのは、なぜでしょう？それを探るために、「希望がない」と応えた 40-50 歳代の女性の「希望がない」理由を見てみました。すると、2014 年では「具体的な希望が思いつかない」が最も多く、約４割、次が「いまのままで十分満足」(34%) となっています。「希望がかなう見込みがない」という消極的な理由は、19.1%でした。これを 2011 年の数値と比べると、「いまのままで十分満足」が増え、「具体的な希望が思いつかない」が減っており、2011 年から 2014 年にかけて福井県の女性の「希望」の状況は改善したと言えます。



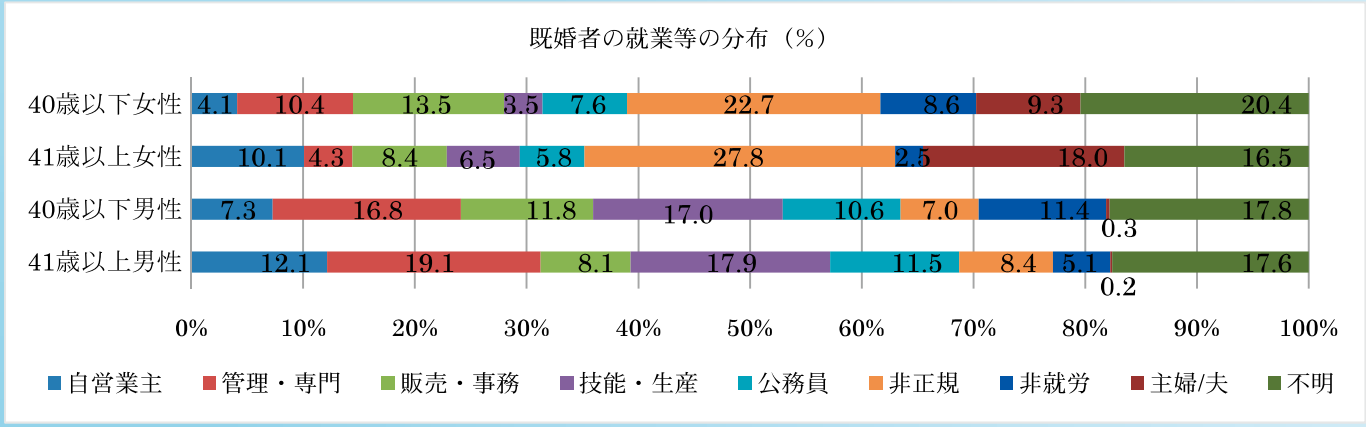
福井の人々は、どのようなことに「希望」をもっているのでしょう？　「希望」の内容について、具体的に挙げていただいたところ、男女ともに「仕事」「健康」「子どもの成長」「家族」が多く挙げられました。男性に比べて、女性は、「仕事」への希望が少なく、「健康」や家族関係に希望を持っています



2　福井の女性の仕事

福井県では、女性の就業率と共働き世帯の割合が高いとよくいわれます。その内実を 20-64 歳に限って確認してみましょう。この調査によると男女計で 68%が就業状態にあり、男性は 75%、女性は 63%です。つまり、男性の４人に３人、女性の３人に２人は働いています。既婚者に限ると、男女計で 69%、男性では 78%、女性では 63%と、男性の就業率はより高くなりますが、女性は変わりません。

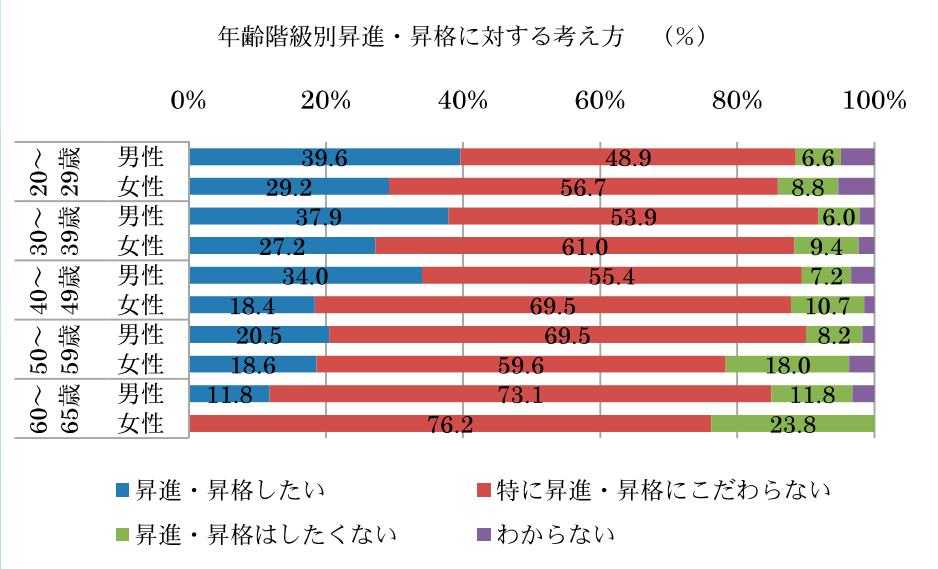
そうした数値の内訳について、この調査では官庁統計よりも細かい分類でみることができます。以下の図は、既婚者で就業状態にある人を正規・非正規、公務員、従業員 9 人以下の自営業主に分け、それ以外の無職や訓練・就職活動中をまとめた非就労、主婦/夫、不明からなる９つグループの構成比を示しています。また年齢で 40 歳以下・41 歳以上に分けてあります。自営業主、正規職の管理・専門職、技能・生産工程、公務員は、男性よりも女性で構成比が低くなっています。女性の雇用は年齢にあまり関係なく非正規が主で、既婚女性の 27%（40 歳以下では 22.7%、41 歳以上では 27.8%）を占めています。



では、女性に多い非正規にはどのような職業が含まれるのでしょうか。次ページの図は、内訳について 5%以上を占める職業を割合の高い順に見ています。また、非正規全体と、非正規のなかでも既婚者の職業を示しています。女性の場合には全体と既婚者のみの間には差はなく、販売・サービスが 38%、事務が 20%、専門が 19%と３つの職業に集中しています。これにたいして男性の場合は、非正規に含まれる職業の種類が比較的多いです。福井県の女性は働く割合は高いですが、男性よりも正規に就く機会が小さく、非正規でも少数の職に偏る傾向にあるといえます。

非正規に占める職業の構成（%）

順序	男性		女性		既婚男性		既婚女性	
1	生産工程・運輸	21.3	販売ｻｰﾋﾞｽ	37.7	生産工程・運輸	24.7	販売・サービス	37.0
2	販売・ｻｰﾋﾞｽ	18.5	事務	20.4	作業労働者	17.3	事務的	20.0
3	作業労働者	17.6	専門	18.9	事務	13.3	専門的	18.8
4	事務	10.7	生産工程・運輸	10.3	販売・ｻｰﾋﾞｽ	12.0	生産工程・運輸	10.7
5	専門	7.9	作業労働	4.8	技術的	7.3	作業労働者	5.1
6	技術	7.4			技能的	6.7		
7	技能	5.6			保安的	6.0		
8	保安	4.6			専門的	5.3		



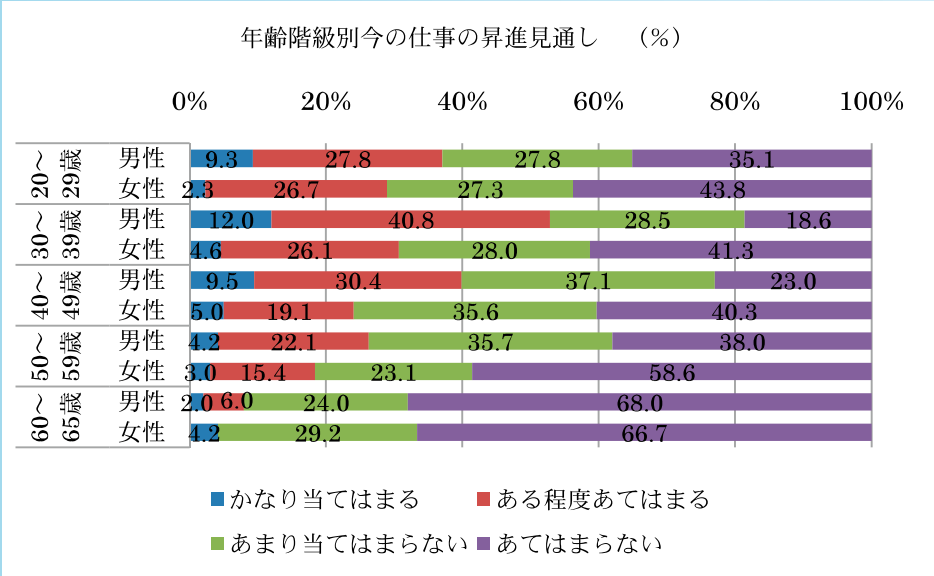
3　福井の女性と昇進

平成 22 年国勢調査によると、福井県の雇用者に占める正社員の割合は 54.8%で、全国平均 45.4%を大幅に上回っています。しかし、管理職の女性比率は、全国平均が 14%に対して、福井県では 11.7%と、全国的に最も低いグループに入っています。福井県では正社員で働く女性が多いのに、女性の管理職が全国的に見て少ないのは、なぜでしょうか？

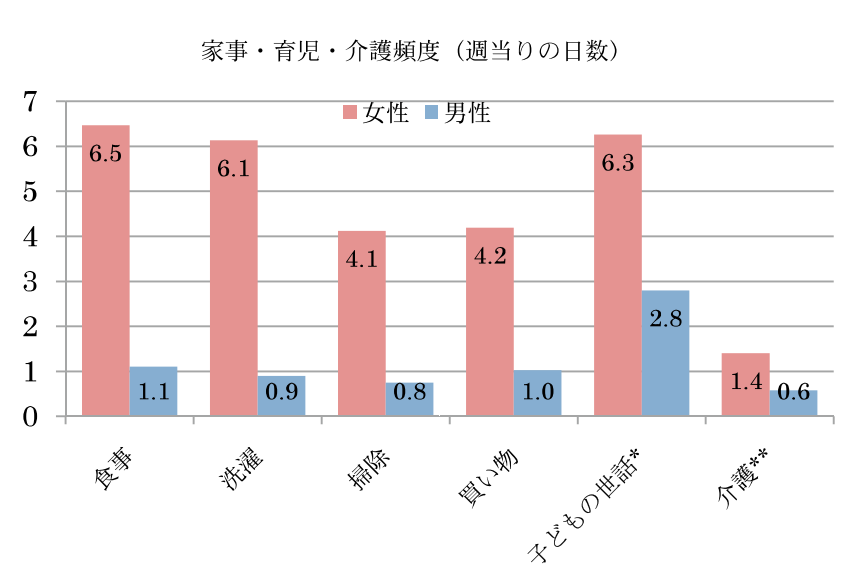
正社員の昇進・昇格に対する考え方を年齢別にみると、20 代～30 代の女性の 3 割近くは昇進・昇格したいと考えていますが、40 代以降でその割合が 10 ポイント近く落ち込み 2 割を切ります。しばしば、女性は結婚や子どもを持つことによって昇進・昇格意欲が減少すると言われます。福井県の正社員女性で、18 歳以下の子どもがいる人といない人を分けてみると、その昇進・昇格意欲の分布はほぼ同じです。ところが婚姻状況によって分布は異なっています。女性の昇進意欲に何が影響を与えるのか、分析を深めることが必要でしょう。

つぎに「今の仕事は上の地位に昇進する見通しがあるのか」を年齢別にみると、女性の 20 代と 30 代では、3 割近くが昇進する見通しが（ある程度）ある仕事についており、この比率は同年代で昇進・昇格意欲をもつ女性の比率と合致します。同時に、「当てはまらない」とする割合は 40 代まででも 40%超で、最も高くなっています。一方男性では、20 代とくらべて 30 代で昇進見通しのある仕事についている割合が大きく上昇し、反面で「当てはまらない」とする割合は、20 代の 35%から 30 代の 18%へとほぼ半減します。

30 代の女性で、昇進する見通しがある仕事に配置される割合がもっと高くなれば、意欲的に働いて管理職になる女性も増えるのではないでしょうか。



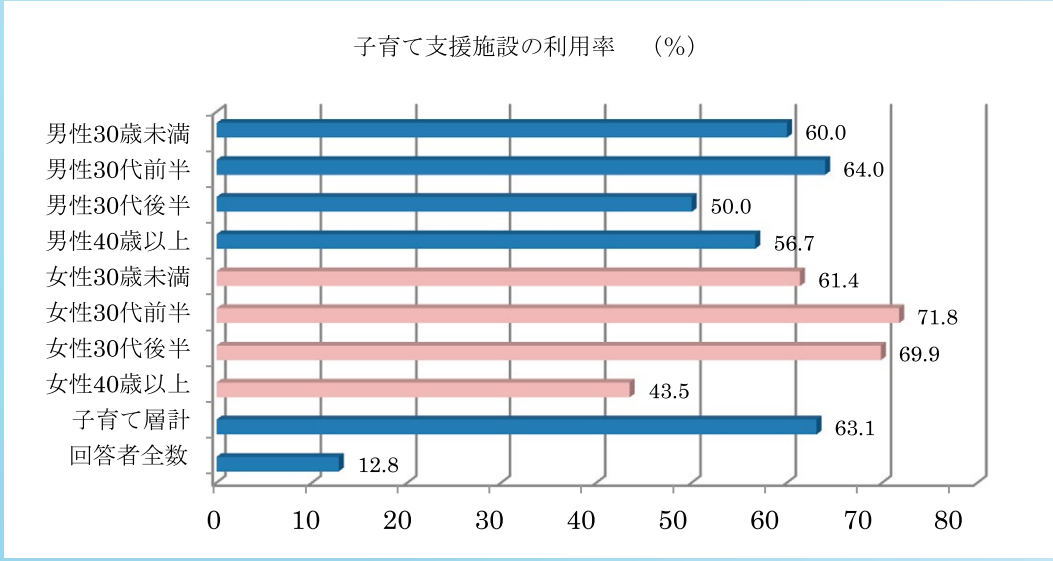
4.　男性と女性の家事分担



週当たりの家事等の頻度(毎日＝7，週に 5～6 日＝5.5，週に 3～4 日＝3.5，週に 1～2 日＝1.5，月に 1～3 日＝0.5，ほとんどしない＝0)
*対象は子どものいる人のみ
**対象は要介護者のいる人のみ

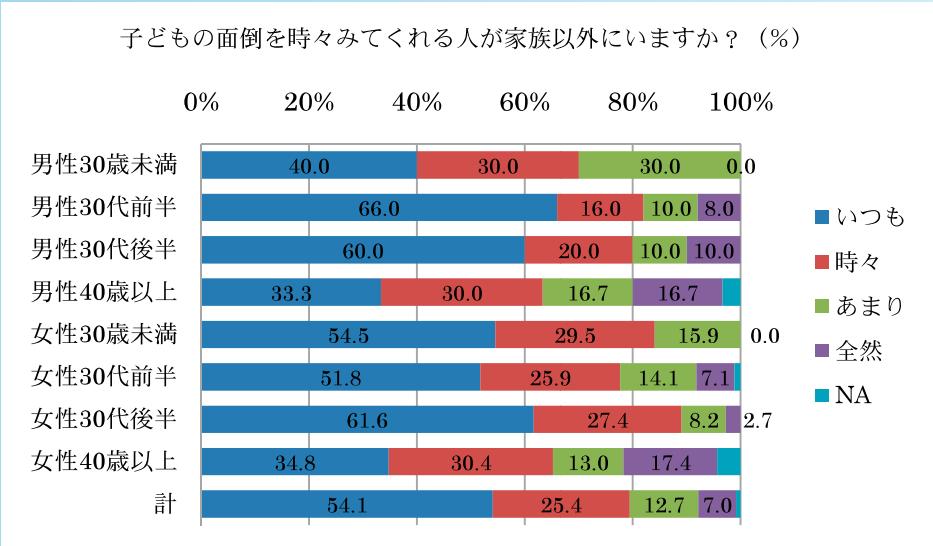
福井では共働き世帯が多いことがわかっていますが、それでは、女性と男性の家庭での家事分担は、どうなっているのでしょう？左のグラフは、既婚の男女が 1 週間のうちに家事・子どもの世話・介護などをおこなう日数の平均値です。食事・洗濯・掃除・買い物という家事では、いずれの項目でも、男性がおこなう日数は、女性の 4 分の 1 から 6 分の 1 にとどまっています。一方で、子どもの世話や高齢者の介護については、子どもの世話が女性の 6.3 日に対して男性は 2.8 日、介護は女性の 1.4 日に対して男性 0.6 日です。男性が子どもの世話や介護をおこなう日数は、女性の半分弱で、家事に比べるとやや高いといえます。

5.　子育ての地域資源



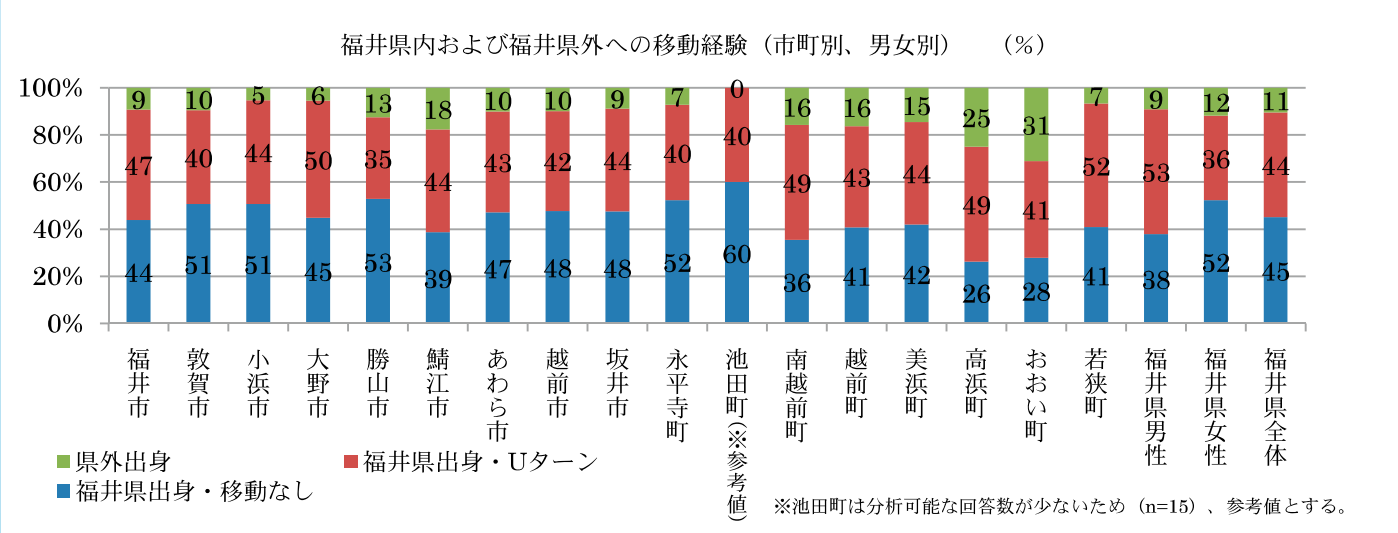
福井は、まだまだ地域のつながりが強いと言われていますが、子育てなどについて地域や公共施設などからの支援は得られているのでしょうか。子育てが一番大変な時期である 3 歳未満のお子さんを育てている方について、何らかの公共の子育て支援施設を利用しているかを尋ねたところ、「利用している」と答えた方が全体の 6 割を超え、福井県の子育て支援施設の充実ぶりがうかがえます。

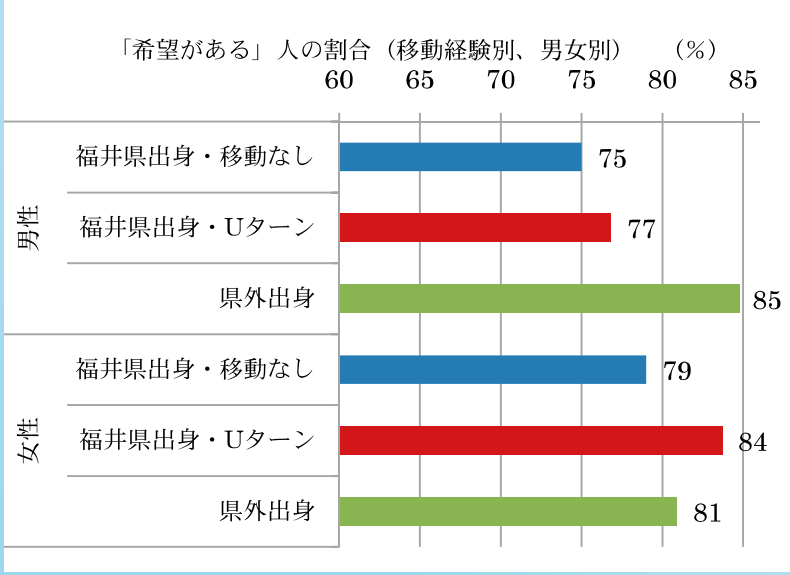
また、子どもの面倒を時々みてくれる頼れる人が家族以外でいるか、という問では子育て層全体で半数より多い 54%の方が「いつでも頼れる」と回答しています。
ですが、男女とも 40 歳以上の方は、3 歳未満のお子さんを預ける家族以外の人が少ないことが分かりました。



６．　福井県出身の人の特性

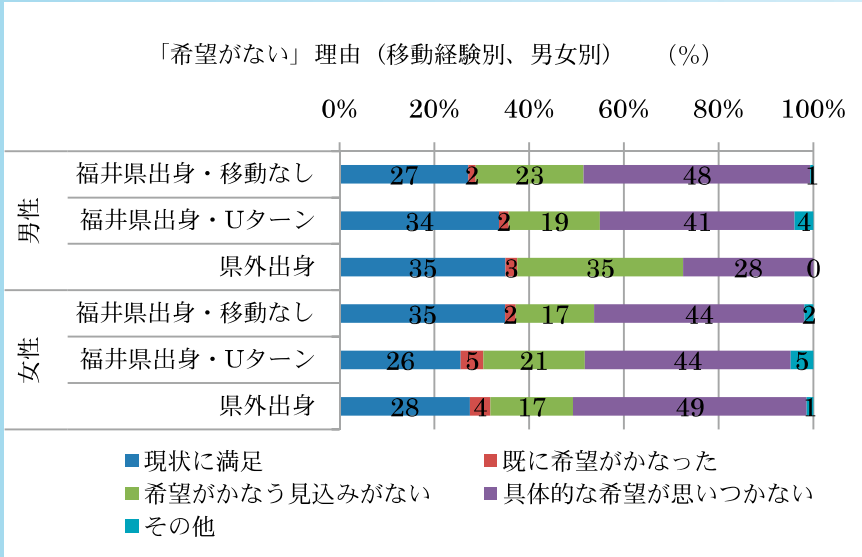
本調査では、福井県在住の人の中でも、県外出身者、福井県出身者（Uターン組、移動なし組）の違いを分析しています。福井県全体では、県内出身者が約９割、県外出身者が約１割ですが、嶺南の一部市町では県外出身者が2～3割とやや高くなっています。県内出身者のうち、男性では一時的に県外へ移動したことのある人（U ターン経験者）が多数派であるのに対して、女性はずっと福井県内で暮らす人が過半数を占めます。



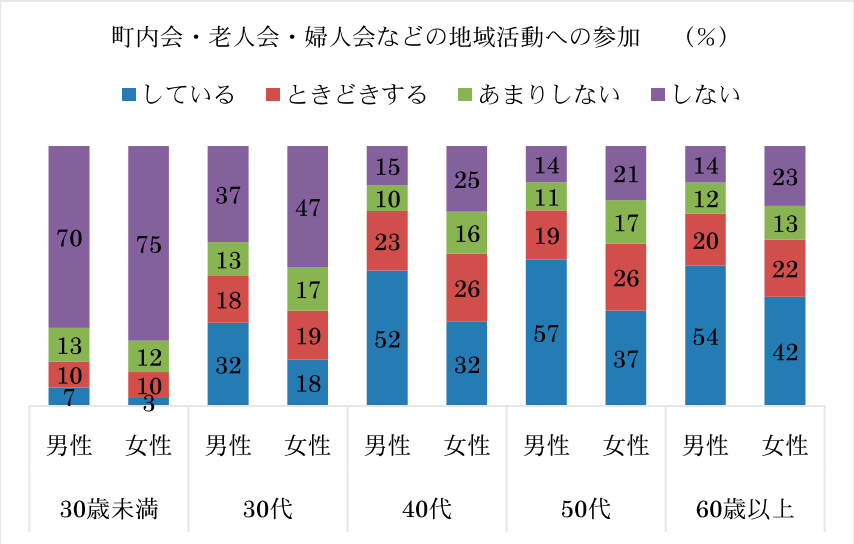


移動経験と「希望」の有無の関係をみると、男女とも福井県外へ出たことがない人よりも、U ターン経験者や県外出身の人のほうが、「希望がある」と答える割合が高くなっています。男性は県外出身者で、「希望がある」と答える割合が最も高く、女性ではUターン経験者で、「希望がある」と答える割合が最も高くなっています。

「希望がない」理由としては、「具体的な希望が思いつかない」が最も多く、次いで「現状に満足」が多く挙げられる傾向にあります。ただし県外出身の男性では、「具体的な希望が思いつかない」という回答の割合がかなり低く、「現状に満足」「希望がかなう見込みがない」が同程度となっています。県外出身男性は、希望とその実現可能性について、現実的に考える傾向にあるといえるかもしれません。



7.　社会活動

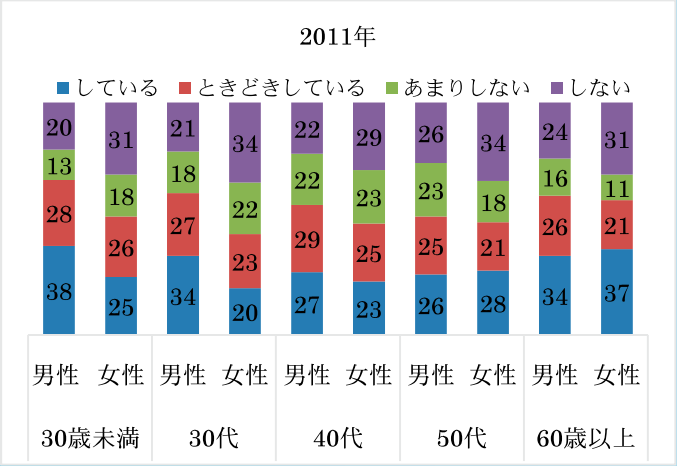


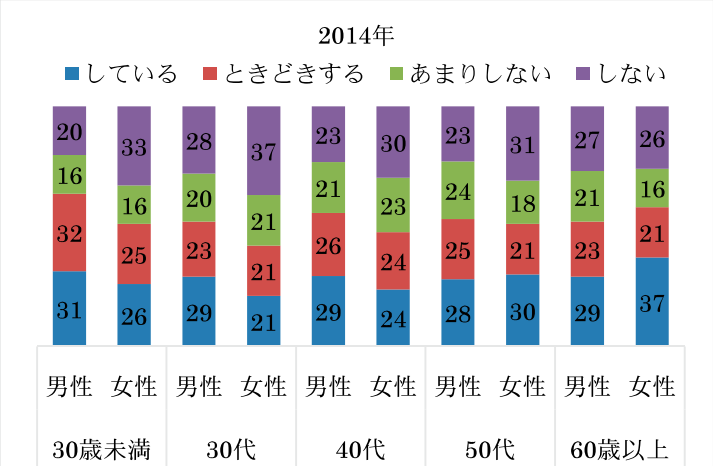
最後に福井の人々の社会活動の状況を見てみましょう。左のグラフは、「町内会・老人会・婦人会などの地域活動」への参加の度合いを、年齢階層別と性別に見たものです。年齢階層別では、女性・男性ともに、年齢が高いほど参加の度合いが高くなります。また、全ての年齢階層で、男性の参加の度合いが女性の参加の度合いよりも高くなっています。これらは 2011 年におこなった前回調査の結果と同様です。

2011 年調査との違いは、第一に、30 代～50 代の女性の参加の度合いが低くなったことです。「している」と「ときどきしている」を選んだ割合の合計を見ると、30 代～50 代の女性では、前回から 5%ポイント以上低下しました。同じ 30 代～50 代の男性では増加しており、男女で対照的な結果となりました。第二に、30 歳未満の女性では、「している」と「ときどきしている」の合計の割合が前回から微増したのにたいして、30 歳未満の男性では微減しました。女性や若者の地域活動への参加は課題であり続けているといえそうです。

つぎに「趣味・スポーツ活動への参加（他人と一緒に趣味・スポーツ活動をしているか）」の回答結果を見ましょう。「している」と「ときどきしている」を選んだ割合の合計を目安として特徴を述べると、第一に、60 歳以上を除くすべての年齢階層で、男性の参加度合いのほうが女性より高く、この点は地域活動の場合と同様です。第二に、男女とも、30 歳未満に比べて 30 代で 10%ポイント弱低くなっています。女性は 40 代以降で上昇しますが、男性では上昇していません。その結果、60 歳以上では女性の参加度合いのほうが男性より高くなる点は、地域活動と異なります。第三に前回調査とくらべると、女性ではほとんど差がありませんが、男性では比較的若い層で参加の度合いが低下しており、とくに 30 代での参加の度合いは 9%ポイント低くなりました。

他人と一緒に趣味やスポーツ活動に参加していますか？　（%）





【調査に関するお問い合わせ】

◆東京大学社会科学研究所　大沢真理　研究室

〒113-0033 東京都文京区本郷７－３－１

Tel 03-5841-4950　Fax 03-5841-4950 E-mail: fukuiseikatsu@iss.u-tokyo.ac.jp

【分析】１.阿部彩（首都大学東京）　２．西村幸満（国立社会保障・人口問題研究所）、３．金井郁（埼玉大学）

４.不破麻紀子（首都大学東京）　５.近本聡子（生協総合研究所）　６．羽田野慶子（福井大学）　７.角　能（埼玉大学）

ISS Institute of Social Science The University of Tokyo

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO